

## 谷川岳・トマの耳 (1963m)

AKA

©2018年12月25日(火) 晴れ 単独

昨年に引き続き2018年末も又、谷川岳・トマ耳を目指した。初めて登ったのが1959年(昭和34)9月、高校2年生の時だから実に59年前。以来、齢重ねて通う事今回で51回目、無事登頂できれば42回目の頂上となり、私にとっても<近くて良い山>というわけである。今更とは思うが因みに「トマの耳」のトマは<てまえ>の意味、「オキの耳」のオキは<奥>というわけで、双耳峰の谷川岳頂上は、水上方面から見て手前(左)に見えるのがトマの耳(薬師岳)、奥(右)に見えるのがオキの耳(谷川富士)である。

東天に金星、西天に満月、今日の快晴を確信し刺すような冷気に身を引き締めて一番電車に乗る。狙い通りの青空、上越線・上牧駅は知る人ぞ知る谷川連峰のビューポイント、真っ白な双耳峰にレンズを向けた。幾度も試みた構図、満足できた写真は1枚もないのだが。

水上駅でバスに乗り替えれば8時45分にロープウエー土合口駅に着くから早いし楽だ。電車を乗り継ぐと土合駅の階段486段を登らねばならず、軽装でも15分、荷物が重ければ20分以上かかり、ロープウエー駅迄30~40分も違うので、朝のこの差は大きい。

初めの頃はロープウエーは無かったし、もぐら駅でもなかったので夜行列車で朝5時頃土合に着くと開削されて間もない巖剛新道か西黒尾根を辿ったものだが、今は当然の如く迷わずロープウエーを使って天神平へ向かう。

気掛かりだった積雪は1寸との事、例年よりも少なめだが、ワカンを着用して9:25出発する。小雪なので夏道ルートが使えるようだ。もっと雪が多いと夏道は使えず、田尻尾根へのいきなりの急登で汗だくになり、ここで手こずると大幅な時間ロスを覚悟しなければならないので、これはラッキー。

天気は絶好の登山日和、20cm程の新雪だがワカンなのでズボッと踏み抜く事もなく歩きやすいものの、垂れ下がった雑木の枝があちこちで顔を打ちそれが邪魔で鬱陶しい。

1時間程で熊穴沢避難小屋に着いたが、雪の多い時は1時間半位かかるので今日は快調だ。見上げる尾根上には20~30人の先行者があり「ヨシッ!」と気合を入れる。ここから1時間、「天狗の溜り場」と呼ばれる露岩までが本日の核心部、毎度の事ながらキツイ登りにあごを出す、目の前の白毛門、朝



(JR上牧駅より谷川連峰)



(天神平より谷川岳 左 トマの耳 右 オキの耳)

日、遠く燧、至仏、景鶴、奥白根、巻機、富士、八、浅間等々旧知の山々の眺望が疲れを癒してくれる。

11:30 天狗の溜り場で昼食とし、その先ザンゲ岩でワカンからアイゼンに履き替えた。6~7名のスキーヤーが気持良さそうに華麗なシュプールを描いて滑り降りてくる。3月になれば西黒沢まで滑り下れるが、今日はせいぜい熊穴沢避難小屋までだろう。

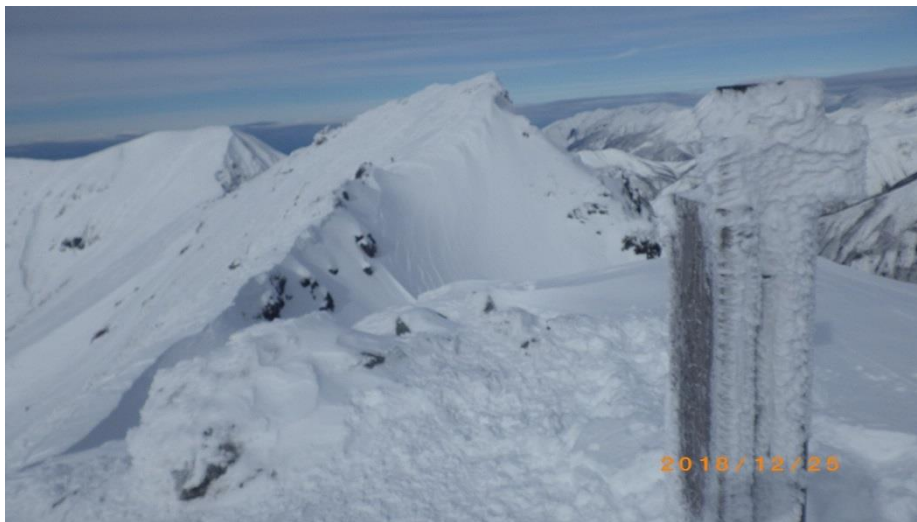
13:05 トマの耳到着。

3月に登った時は3時間ちょっとだったのだが、3時間40分ならまあまあだ。頂上近くでサングラスかけた大型犬と出会った。ハスキー犬のようで樋口明雄の南アルプス・レスキュー犬を思い浮かべた。なかなか恰好良く利口そうに見える。

調子良ければオキの耳まで足を伸ばすのだが、今日はここまでとし、写真を撮って早々に下山にかかり、天神平まで1時間15分で駆け下り、2018年の登り納めとした。



(山頂で出会ったレスキュー犬?)



(トマの耳よりオキの耳)

帰路の電車の中で、これで42回目の登頂となったが、折角だから切りの良い所でこれから年に3回、80歳での50回目登頂を目指そうかなんて思いがふつふつと湧いてきた。

(了)